

## 胆石症の外科的手術について

消化器・乳腺センター 消化器外科  
部長 石井正嗣医師

5月号で胆石症の内視鏡を使った内科的治療について書きました。今回は外科的治療と胆嚢炎、そして消化器のがんについて気をつけることを石井医師に聞きました。



### 胆石症どう手術するか？

まず、胆石症には2つあります。肝臓で作られる消化液「胆汁」が十二指腸に流れる道「胆道」に結石ができる「総胆管結石」、胆汁が十二指腸に流れる途中で溜る「胆嚢」に結石ができる「胆嚢結石」です。総胆管結石は十二指腸まで内視鏡を挿入し、胆汁の出口である乳頭を切開して胆管に造影剤を入れてX線で観察するERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)で結石を取り除くケースもあります。

また、胆嚢結石の場合は、結石が胆嚢の出口の胆嚢管にはまり、胆汁がうっ滞し、細菌感染を起こして炎症が起る「胆嚢炎」を併発する場合も多くあります。胆石症は「最終的には胆嚢を切除することになる」と一言で言っても、痛みや炎症、結石の数や大きさににより、治療の仕方はまったく変わってきます。

### 胆嚢炎

先述したとおり、結石が原因で発症する病気ですが、炎症や癒着の程度から、診断ガイドラインに基づいて治療を行います。炎症

が軽い場合であれば、胆嚢摘出手術を行います。当院では腹腔鏡下手術を行っています。これは腹部に4か所、5〜10mmの穴をあけて細長い器具を入れて、内視鏡(腹腔鏡)でお腹の中を見ながら、手術する方法であり、これは開腹手術よりも患者さんの身体への負担は少なく、回復も早くなります。

胆嚢の炎症が強い場合は、胆嚢内の膿を排出する胆嚢ドレナージ(皮膚から針を刺して膿を排出・吸引する方法)を行い、炎症を抑えたいうえで、腹腔鏡下手術を行います。この手術は炎症で胆嚢が硬化していないければ1時間〜1時間30分で終わりますが、硬化している場合は難しい手術となります。入院期間も胆嚢炎を起こさない場合3泊4日が普通ですが、胆嚢炎がある場合は1週間や10日必要な場合があります。

また、胆嚢炎は胆嚢がんと合併していることもあり、組織の病理検査を行い、注意が必要になります。

### 消化器のがんについて

当科では消化器系悪性腫瘍を多く診ています。日本人が一番

多くかかっている大腸がんは、正しく検診を受診すればほぼ完全に見つけることができ、早期治療で治る可能性が高いがんです。大腸がんから転移しやすい肝がんも、医療技術の発達により、最近では「切除できるものは切除する」という治療が主流になっています。肝がんは症状が出にくいいため、家族歴やアルコールや喫煙習慣がある人は採血で腫瘍マーカーのチェックするなど定期的に受診してください。

よく、他の病気の検査で運よく悪性腫瘍が見つかり、「ラッキーだった」と言う方がおられますが、私はそのラッキーを積み重ねることが大切だと考えます。人は病気になるもの。日頃のメンテナンス⇨定期健診が必要です。そして、身近に相談できるかかりつけ医を持つことが重要です。インフォームドコンセントを得るためにも、かかりつけ医を複数持つことが理想です。

●6月よりヘルニア(脱腸)センター(外来)が稼働しています。気になる方は気軽に受診してください。